

3R瓦版 (12月号) 2019年

負けるな!
エコ3Rくん
作:フジコイトウ



© 2019 フジコ イトウ All Rights Reserved.

気候変動への適応：リスクとチャンス

2019年は台風19号によって東日本が大きな被害を受け、また2018年には台風21号と西日本豪雨によってここ近畿圏も大きな被害を受けました。これは日本列島周辺の海水温上昇など、地球温暖化との関係性が指摘されています。また、夏になれば35℃前後の日が続くなど、温暖化が既に始まっていることを実感する機会が徐々に増えてきました。

「CO2の削減、待ったなし」という状況ですが、同時にこれら「変化する気候に対応することも待ったなし」という状況です。このように、CO2の排出量削減をして気候変動を抑える活動を「緩和」(mitigation)と呼ぶのに対し、気候変動の影響へ対応し、被害を抑制することを「適応」(adaptation)と呼びます。

世界はパリ協定で平均気温の上昇を2℃未満(1.5℃未満を目指す)と合意しましたが、仮にそれが達成できても1.5℃前後は気温上昇が起ってしまうことを意味しています。であるならば、ある程度は気候変動が進んでしまうことを覚悟して私たちの生活・ビジネスも変えていく必要があります。

気候変動の影響といえば、これまでにない極端な豪雨や高温、海面上昇など様々なものが挙げられます。豪雨であれば自宅や自分の会社が安全な場所にあるのか、また重要な取引先や顧客も対策を進めているのか、確認しておく必要があるでしょう。

また、高温であれば酷暑が続く場合でも業務が続けられるのか、何らかの設備や備品を用意しておく必要があるのか、考えておく必要があるでしょう。例えば、酷暑が続いた2018年にはファン付きの作業服が売り切れ続出となり、調達したくても購入できない事態になりました。自らの生活はもちろんのこと、職場を守るための気候リスク管理が求められています。

一方、そのような製品・サービスを提供できる企業にとってはビジネスチャンスともいえるでしょう。気候変動が進めばどのような事象が発生し、それに対して自社の製品・技術・サービスで何かできないかと考え、気候リスクをチャンスとも考える柔軟さが求められます。気候変動の影響は困ったものが多くありますが、それを少しでも和らげ、願わくはプラスに感じられるような製品・サービスが出てくることに期待しています。

RepairFactory (株)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見220番地

tel: 0774-66-6254

立命館大学 政策科学部 准教授 中野勝行